

第3次 船橋市総合計画(骨子案)

- ◆ 序論
- ◆ 基本構想
- ◆ 基本計画(主要な取組)

令和元年12月25日
船橋市

第3次船橋市総合計画(骨子案) <構成イメージ>

序論

総合計画策定の前提として、「本市の特性」や「社会経済情勢」、また本市の現状や将来予測から見える「発展の可能性(強み)」と「重点課題(弱み)」を整理する。

市の特性

市を取り巻く
社会経済情勢

市の発展の可能性

市が抱える重点課題

基本構想

将来都市像

めざすまちの姿を包含・集約し、市民と広く共有できる、将来のありたいまちのイメージとして掲げる。

めざすまちの姿

序論を踏まえ、本市のまちづくりの大きな方向性として掲げ、各分野横断的な目標とする。

めざすまち①

めざすまち②

めざすまち③

めざすまち④

まちづくりの基本姿勢

総合計画の推進にあたって、各分野のまちづくりにおける共通の基本姿勢を示す。

基本計画

主要な取組

基本構想の実現に向け、各分野で実施する施策のうち、主要な取組を「めざすまちの姿」ごとに整理する。

取組1
取組2
⋮

取組1
取組2
⋮

取組1
取組2
⋮

取組1
取組2
⋮

今回審議部分

分野別計画

基本構想の実現に向け、各分野における基本的な施策を位置付ける。

船橋市の特性

①地理的優位性

- 東京都心から20km圏に位置し、JR船橋駅から東京駅までの所要時間は約25分。
- 都心部と県都千葉市方面を結ぶ交通動脈上に位置する。
- 本市から羽田空港、成田空港までの所要時間はそれぞれ約50分。

②充実した鉄道網を活かした生活利便性の高い都市構造

- 9路線35駅という充実した鉄道網を有している。
- 鉄道駅を中心とした身近な地域に商業や医療、公共施設などの都市機能が適正に配置されるなど、生活利便性の高い都市構造を有している。

③都心近郊にありながら、多様な自然環境が残る

- 市域を北部方面から見ると、北部地域を中心に緑が広がり、台地から斜面、低地、海へと続く地形が形づくられ、南部地域は貴重な干潟「三番瀬」に面している。また、地形に応じて様々な生き物たちが生育・生息するなど、多様な自然環境が残されている。
- 季節を問わず多くの草花が咲き誇るアンデルセン公園や、都心から最も近い潮干狩り場である三番瀬海浜公園は、どちらも楽しみながら自然に親しめる場所で、市内外から多くの人を集める人気のスポットとなっている。

④堅調な人口増加、高い定住意向

- 全国的に多くの自治体が人口減少に転じる中、これまで堅調な人口増加が続き、平成30年4月現在、中核市最大の63.7万人となっている。
- 年少人口は既に減少局面に入っている。生産年齢人口は2028年まで緩やかに増加しその後緩やかに減少する見込み。老年人口は2053年まで増加し続ける見込みとなっている。
- 「住み続けたい」という市民の定住意向は8割を超えている。

⑤多彩な産業が発達

- 市の全産業の売上(収入)は、約2兆円で、県内で2位である。また、産業別就業者の構成比は第1、2次産業に対し第3次産業が高くなっている。
- 商業…大型商業施設が立地するとともに市内35駅を中心に商店街が広がっている。卸売業、小売業は、売上高、従業者数、事業所数ともに全産業中で最も多い。
- 工業…日本最大級の規模の食品コンビナートや高い技術力を誇る多くの中小企業などが立地。製造業の製造品出荷額の近年の実績は着実に伸びている。
- 農業…「船橋のなし」や「船橋にんじん」が地域団体商標に登録されており、農業産出額の近年の実績は着実に伸びている。
- 漁業…伝統的な海苔養殖や採貝漁などが営まれており、近年はホンビノス貝を中心に漁獲量の実績が着実に伸びている。なお、すずき類の漁獲量は全国1位となっている。

⑥船橋に根差す文化・スポーツ

- 市内には約200か所の遺跡があり、近年、国内でも希少な約1万年前の縄文時代早期前半の貝塚と集落跡、また日本最古の動物儀礼跡がある取掛西貝塚が発見され、本市で初の国史跡指定を目指している。
- 市内の小中高等学校の器楽部や合唱部、市立船橋高校の各部活動が、全国的な大会などでめざましい活躍を見せている。
- 「音楽のまち」を冠し、市民主体の様々な音楽イベントを開催するなど、市域全体において音楽活動が盛んである。
- 昭和58年に「スポーツ健康都市宣言」を行い、環境整備を進めたことにより充実した運動施設を活用して、市民が日常的にスポーツに親しんでいる。
- プロバスケットボールチーム「千葉ジェッツふなばし」やラグビーチーム「クボタスピアーズ」が本市を拠点に活動している。

船橋市を取り巻く社会経済情勢

①進む人口減少・少子高齢化

- 全国的に少子高齢化が進展し、人口動態の自然減(出生数－死亡数)の拡大により、人口減少の加速化が見込まれる。
- これまで地方部からの人口流入が続いていた首都圏においても、本格的な人口減少局面に突入するとともに、平均寿命の延伸により高齢化が加速することが見込まれる。
- 全国的な人口減少・少子高齢化の影響は、確実に本市にも及び、本市の総人口は令和15年の66.4万人までは増加すると見込まれるが、その後は人口減少に転じる。また、老年人口、特に75歳以上の後期高齢者が急増し、本市の人口構造は今後大きく変化することが予測される。

②広域道路ネットワークの整備

- 広域的な道路ネットワークとして、「首都圏中央連絡自動車道(圏央道)」、「東京外かく環状道路(外環道)」及び「首都高速道路中央環状線(中央環状線)」からなる3つの環状道路(3環状)の整備進展や、外環道と成田空港を最短で結ぶ一般国道464号北千葉道路の全線開通に向けた検討が進められている。
- 沿線地域では、都市間の広域的な道路ネットワーク機能の向上や、慢性的な交通渋滞の解消、企業や大型物流施設の新規立地、来街者の増加等様々な経済効果が期待されている。

③自然災害のリスクの高まり

- 首都中枢機能への影響が懸念されるM7クラスの首都直下地震が、今後30年以内に発生する確率は70%程度と高い数字で予想されている。
- 大型台風の日本列島への接近・上陸は、しばしば大きな被害をもたらしている。また近年は、短時間強雨の回数が増加傾向にあり、河川氾濫や浸水被害が多く発生するなど、自然災害の発生リスクが高まっている。

④先端技術の活用による新たな価値を創出する社会の実現

- 近年、実社会の中であらゆる知識や情報がデータ化され、ネットワークでつながるIoTやAI(人工知能)、ロボット、ビッグデータなどに代表される、「第4次産業革命」と称される技術革新が世界規模で進展している。
- 国では、これらの先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れることで、新たな価値やサービスが次々と創出され人々に豊かさをもたらす「Society5.0」(狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く人類史上5番目の社会)の実現を目指している。
- 人口減少や高齢化を背景に、複雑・多様化する様々な地域課題の解決に向けて、まちづくりの多分野において、無人自動運転やオンライン医療、農水産業のスマート化等の技術の活用が期待されている。

⑤低炭素・循環型社会に向けた取組

- 低炭素社会に向けては、国が目標とする2030年度の温室効果ガス排出量の2013年度比26%削減の達成のため、再生可能エネルギー等の利用促進や、市民・事業者への情報提供と活動促進を図ることで、地球温暖化対策に取り組むことが求められている。
- 循環型社会に向けては、3Rの推進により、一般廃棄物排出量の減少など一定の成果が見られるものの、限りある天然資源の消費を抑制するため、2R(リデュース・リユース)の一層の推進や、今後予測される自然災害により発生する災害時廃棄物への対策などの取組が求められている。

⑥持続可能なまちづくりへの取組

- 地方自治体が将来にわたって成長力を確保するには、人々が安心して暮らせるようなまちづくりと地域活性化が重要となる。
- 2015年9月の国連サミットで採択された2030年を目標年とする先進国を含む国際社会全体の17の開発目標であるSDGsは、経済、社会及び環境の3側面における持続可能な統合的取組を推進するものである。
- 経済、社会及び環境という多角的視点からの多様な目標の追及は、各地域の諸問題の解決に貢献し、持続可能なまちづくりや地方創生に資するものと期待されている。

-----船橋市の状況-----

- 人口は令和15年までは緩やかに増加する見込み
- 市民の定住意向が高い
- 市民の活発な地域・社会活動が行われている

- 老年人口が増加する見込み
- 健康とくらしの調査2016(JAGES)の結果が非常によい
- 平均寿命・健康寿命ともに延伸し、全国平均値より高い

- 立地優位性及び交通利便性を背景に多彩な産業がバランスよく発展してきた
- 物流拠点としての高いポテンシャルを秘めている

- ふなばしメディカルタウン構想をコンセプトとした海老川上流地区のまちづくりを進めている
- 官民連携によりJR南船橋駅南口市有地の活用を進めている

-----船橋市の発展の可能性-----

①増加する人口、まちを支える市民の力

本市の人口は、平成30年4月現在、中核市最大の63.7万人であり、今後の将来推計では、令和15年に66.4万人まで増加することが見込まれている。また、市民意識調査の結果では、本市に「住み続けたい」「愛着を持っている」割合が高い。本市は、それぞれの時代に様々な立場の市民によって支えられ、まちが発展してきた。近年も、地域や文化・スポーツなど様々な分野において、子供から大人まで幅広い年代の市民が活躍し、まちの活力を生み出している。行政と市民が一体となって、市民がさらに活躍できる環境を整えることで、まちの魅力をさらに高めていくことが期待される。

②健康づくりや生きがい創出によるまちの活性化

健康とくらしの調査2016(JAGES)では、参加した39の市町村の中で高齢者の運動機能低下者の割合が最も低いなど総合的に最上位の結果であったほか、本市の健康寿命は全国平均値より高い。今後の高齢者の増加に伴い、健康志向を持つ人の数も増えることが見込まれるため、健康づくりの取組をより一層進めることで、元気な高齢者が増え、地域交流の促進も期待される。また、高齢者の就業やまちづくりへの参画の機会の拡大により、生きがいを創出するとともに、新たなまちの活力を生み出すことが期待される。

③さらなる産業発展の期待

南部地域には、食品コンビニートをはじめとする工業地区や物流施設、大型商業施設などが集積しており、平成30年度の外環道開通により、これまで以上に立地優位性が高まっている。また、圏央道や北千葉道路の整備が予定されており、本市の広域道路ネットワークの機能が向上することで、北部地域においても新たな物流拠点や企業の進出が期待される。

④新たな魅力を創出するまちづくり

- 健康維持や予防医学等の考え方をまちづくりに活かす「ふなばしメディカルタウン構想」をコンセプトとする海老川上流地区では、「進化し続けるまち(地域)」の実現を目指している。医療センターの移転や新駅の誘致を核とし、「健康寿命日本一」に取り組む本市の健康・医療の中核となるまちを目指している。
- JR南船橋駅南口市有地は、駅前の約4.5haという高いポテンシャルを最大限に活用するため、民間事業者が持つノウハウを活かすことにより、臨海部の玄関口としてふさわしい拠点形成を含めた魅力的なまちづくりを実現する。
- これらのまちづくりを推進することにより、本市の新たな魅力の創出が期待される。

---船橋市の状況---

- 人口動態の2極化
- 単身・共働き世帯の増加
- **障害のある人**の増加
- 外国人住民の増加
- **電話de詐欺被害の増加**
- **町会・自治会加入率の低下**

- 歩道や道路が狭い
- 慢性的な交通渋滞
- 地震や豪雨等の自然災害リスクの高まり

- 年少人口はすでに減少傾向
- 保育需要の伸びにより待機児童が解消していない
- **貧困の連鎖の社会問題化**
- 児童虐待の相談件数が増加

- 老年人口、特に後期高齢者が増加する見込み
- 高齢夫婦世帯、高齢単身世帯の増加
- **平均寿命と健康寿命の差が大きくなっている**

- 高齢化の進展に伴う社会保障費の増加
- 清掃工場の建替等による公債費の増加
- 公共施設の老朽化

-----船橋市が抱える重点課題-----

①複雑多様化する地域課題への対応

市内の人口動態を行政5ブロックで見ると、西部・南部地域では転入超過が続く一方で、東部・中部・北部地域では人口減少及び高齢化が進んでおり、2極化が進行している。また、単身・共働き世帯や**障害のある人**、外国人住民が増加している。このほか、個人の価値観やライフスタイルが多様化するなど、市民生活は大きく変化してきている。こうした中、防犯や防災など地域活動の担い手の確保、障害への理解の促進、外国人住民との共生など、複雑多様化する地域課題に対して地域特性や個々の生活環境に応じた対策が求められる。

②より安全・安心に暮らせる都市基盤の整備

道路整備については、市民意識調査の「住みにくい理由」及び「力を入れるべきもの」の双方において、道路整備に関する回答が7年連続1位となっており、特に歩行者や自転車の安全対策と交通渋滞対策が強く求められている。また、首都直下地震のリスクや全国的に大きな被害をもたらしている台風や大雨への対策として、公共施設やインフラの適切な整備・維持管理が必要とされる。

③子供を安心して産み育てられる環境の整備

本市の合計特殊出生率は全国平均を下回っており、年少人口は減少傾向にある。また、待機児童数はピーク時より減少しているものの、直近3年は横ばいで推移している。こうした中、保育所や放課後ルームの待機児童対策を引き続き進めるとともに、不妊に悩む夫婦や妊産婦、乳幼児に対する包括的な支援等、子供を安心して産み育てられる環境整備が求められている。また、子供の貧困や児童虐待などの課題にも適切に対応していく必要がある。

④超高齢社会に対応した地域包括ケアシステムの構築

後期高齢者の増加に伴い、要支援・要介護認定者や医療を必要とする高齢者の増加が見込まれており、医療と介護の連携がますます重要となる一方で、必要なサービスを提供するための介護人材や医療人材の不足が懸念されている。こうした中、高齢になっても元気に住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、疾病予防・介護予防や生活支援、在宅医療の推進などを柱とする地域包括ケアシステムの構築が求められている。

⑤持続可能な行財政運営に向けた取組

子育て支援や生活保護に係る扶助費や、高齢化の進展に伴う医療や介護等に係る経費の増加が見込まれるほか、近年積極的に取り組んできた学校の耐震化や清掃工場の建替等に伴う市債の償還など、義務的経費の増加により財政の硬直化が今後ますます深刻となることが予測される。こうした中、今後も老朽化した公共施設等の維持・更新、市民の安全な暮らしに関わる道路や河川等のインフラの整備を進めるほか、必要な市民サービスを提供していくために、持続可能な行財政運営に向けた取組が必要となる。

めざすまちの姿

序論を踏まえ、本市のまちづくりの大きな方向性として「めざすまちの姿」を掲げ、各分野横断的な目標とする。

①輝くひと

地域の輪の中で、 一人ひとりが自分らしく輝けるまち

市民活動の輪は、地域や学校、産業、文化、スポーツなど様々な分野で広がりを見せており、市民の活躍がまちの活性化や発展につながっています。

年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず、お互いの個性や価値観を理解・尊重するとともに、誰もがそれぞれの能力を活かしながら地域活動に関わることにより、地域づくりの輪をさらに広げることができます。

人生100年時代を見据え、市民一人ひとりがライフステージに応じた生き方や学び方、働き方を選択することができ、地域の輪の中で、生涯にわたって自分らしく生き生きと輝けるまちを目指します。

②安心できる暮らし

住み慣れた地域で、 健康で安心して暮らせるまち

市民の生命や財産の安全が確保されるとともに、支えが必要な時には適切な支援やサービスを受けることができる安心して暮らせる生活環境は、市民の活躍やまちの発展に欠かせない、まちづくりの土台です。

安心して子育てすることができる環境づくりや、障害のある人、高齢者、生活困窮世帯等の自立や生活の支援、健康づくりや地域医療の充実、自然災害への対策や防犯対策など、様々な側面で市民の暮らしを守る取組を推進し、市民が住み慣れた地域で、健康で安心して暮らせるまちを目指します。

本市を取り巻く現状・課題

1. 市民活動の分野は多岐にわたっており、様々な分野で多くの市民が活動している。
2. 地域との関わりの希薄化、地域活動への関心の低下等により、町会・自治会の加入率が低下している。
3. 少子高齢化により、企業等の労働力不足が懸念される。
4. 平均寿命、健康寿命ともに延伸している。
5. 障害のある人の増加により、周囲からの一層の理解が求められる。
6. 外国人住民が増加している。
7. 男女共同参画の推進と多様な性の尊重が求められている。

1. 地震や台風、短時間強雨等の自然災害リスクが高まっている。
2. 電話de詐欺の被害件数・被害額が、ともに県内ワースト2位(平成30年)。
3. 老年人口が増加している。(今後は、特に後期高齢者が増加見込み)
4. 高齢夫婦世帯、高齢単身世帯が増加している。
5. 医療や介護需要の伸びにより、社会保障経費が増加している。
6. 平均寿命・健康寿命ともに延伸しているが、その差が広がっている。
7. 年少人口はすでに減少傾向にある。
8. 保育需要の伸びにより、保育所等の受け皿が不足している。
9. 貧困の連鎖が社会問題となっている。
10. 児童虐待の相談件数が増加している。
11. 障害のある人の増加により、相談支援の充実が求められる。

めざすまちの姿

序論を踏まえ、本市のまちづくりの大きな方向性として「めざすまちの姿」を掲げ、各分野横断的な目標とする。

③まちの進化

活力と魅力にあふれ、 進化し続けるまち

住む人、働く人、訪れる人など、人が集まるまちには活力が生まれ、その活力がまちの魅力を高め、さらに人を集めるという好循環を生み出します。

将来にわたって、市民に愛され、市外からも多くの人を集め、まちの活力を維持するために、その原動力とも言える産業のさらなる活性化を図るとともに、本市の長い歴史の中で培ってきたまちの伝統や文化、スポーツなど様々な地域資源を活かしながら、新たな賑わいを創出するまちづくりに取り組み、活力と多彩な魅力にあふれる、進化し続けるまちを目指します。

④快適で 豊かな暮らし

快適で豊かに暮らせる、 人と環境にやさしいまち

公共交通や生活に欠かせない医療機関や商業施設等の充実がもたらす生活の利便性と、海や川、緑地など自然の恵みがもたらす安らぎの両面を享受できる暮らしは本市の魅力のひとつです。

このような都市と自然が調和した暮らしを次世代へ引き継いでいけるよう、都市機能の維持・向上に努めるとともに、自然環境の保全や環境負荷の少ないまちづくりを推進するほか、市民生活の利便性や質をさらに高める先進技術を積極的に導入するなど、快適で豊かに暮らせる、人と環境にやさしいまちを目指します。

本市を取り巻く現状・課題

1. 都心から20km圏内に位置する地理的優位性を活かして、人口が堅調に増加しているほか、多彩な産業が集積している。
2. 鉄道網の発達や広域道路ネットワークの整備により都心や県内他都市、羽田・成田両空港等へアクセスしやすい、交通の要所である。
3. 歴史と伝統ある文化財や、盛んな市民の文化活動、本市を拠点に活動する「千葉ジェッツふなばし(バスケットボール)」や「クボタスピアーズ(ラグビー)」など、文化・芸術、スポーツに関する豊富な地域資源を有している。
4. 医療と健康をテーマとした海老川上流地区のまちづくりや、JR南船橋駅南口市有地の活用を進めている。

1. 9路線35駅を有する鉄道網やバス路線により、交通利便性に優れている。
2. 医療、福祉、商業施設等が駅を中心とした身近な地域に配置され、生活利便性に優れている一方で、交通や買い物の利便性が高くない地域も一部ある。
3. 都心近郊にありながら海や川、緑地など多様な自然環境が残されている一方で、農地や緑地等の自然的土地利用の割合が減少している。
4. 低炭素社会・循環型社会に向けた取組の推進が国際的に求められている。
5. 交通安全対策、交通渋滞の緩和など道路整備が積年の課題である。
6. AI、IoT、ロボット等の先端技術を活用した、新たな価値やサービスの創出により、市民の暮らしの豊かさの向上が期待されている。

まちづくりの基本姿勢

総合計画を推進するにあたって、各分野のまちづくりにおける共通の基本姿勢を示す。

多様な主体との協働

基本構想に掲げる将来都市像やめざすまちの姿は行政の力だけで実現できるものではありません。

行政、市民、団体、事業者等の多様な主体が、あらゆる分野において、お互いの立場を理解し対等な関係で、それぞれの強みを生かしながら、連携・協力することが大切です。

市民や団体、事業者等が、組織や既存の枠組みを超えて、市政や地域づくりに参画しやすい仕組みや環境づくりを進め、地域の力を活かしたまちづくりに取り組みます。

実効性の高い行財政運営

本市を取り巻く社会経済情勢や厳しい財政見通し等を考慮した場合、今後のまちづくりにおいては、限られた財源、人材等の経営資源の戦略的・効果的な配分・投入がより一層求められます。

複雑多様化する地域課題や市民ニーズを的確に捉え、施策・事業の取捨選択、優先順位付けを行うとともに、施策・事業の目的を明確化し、施策・事業の推進により目的が達成できていること、課題の解決・改善につながっていることを重視し、真に効果を上げる実効性の高い行財政運営に取り組みます。

本市を取り巻く現状・課題

1. 町会・自治会をはじめ、地域課題に自主的に取り組んでいる市民活動団体、高齢者支援等の福祉活動を行う団体など、これまでも様々な分野で多様な主体が本市のまちづくりを支えてきた。
2. 少子高齢化の進展により、町会・自治会等の既存の団体の担い手が将来的に不足することが懸念される。
3. 市の経営資源(財源、人材)に限られる中、複雑多様化する地域課題のすべてに行政だけで対応することが難しくなってくる。
4. 東日本大震災等の経験を通じて、地域コミュニティの重要性や地域の課題を自らの活動によって解決しようとする意識が広がっている。
5. 「ダイバーシティ」の考え方の広まりにより、これまでサービスの受け手であった人が、担い手となる例が今後増えることが見込まれる。

1. 子育て支援や生活保護に係る扶助費、医療や介護に係る経費の増加が見込まれるほか、近年積極的に取り組んできた学校の耐震化や清掃工場の建替等に伴う市債の償還など、義務的経費の増加により財政の硬直化が今後ますます深刻となることが予測される。
2. 老朽化した公共施設等の維持・更新に係る経費の増大が見込まれる。
3. 少子化の進展に伴い、職員の人材確保が今後ますます困難となることが懸念される。
4. 人口増や少子高齢化の進展、複雑多様化する地域課題への対応により行政需要が増加し、それに伴い業務量も増加している。

主要な取組

基本構想の実現に向け、各分野で実施する施策のうち、主要な取組を「めざすまちの姿」ごとに整理する。

めざすまちの姿① 「地域の輪の中で、一人ひとりが自分らしく輝けるまち」

	取組名称	めざすべき状態	主な施策
①-1	生涯を通じた学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自ら望む学びを生涯を通じて選択できている 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習の機会創出 学校教育における教育内容の充実
①-2	社会参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしい生き方を実現するための就労や活動ができている 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障害のある人の就労支援 多様な人材が働きやすい環境の整備 市民活動・地域活動の参加促進
①-3	理解・共生の促進	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが、お互いの個性や価値観を理解・尊重している 	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある人への理解の促進 外国人住民との共生

主要な取組

基本構想の実現に向け、各分野で実施する施策のうち、主要な取組を「めざすまちの姿」ごとに整理する。

めざすまちの姿② 「住み慣れた地域で、健康で安心して暮らせるまち」

	取組名称	めざすべき状態	主な施策
②-1	子供が笑顔で育つ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代が安心して子供を産み育てることができる すべての子供たちが生まれ育った環境に関わらず、安心して暮らしている 	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援 子供の貧困対策 児童虐待防止のための体制整備 保育所や放課後ルームの待機児童対策
②-2	健康寿命日本一に向けた健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命が延伸し、高齢者の生活の質が向上している 	<ul style="list-style-type: none"> 疾病予防、介護予防の推進 大学や事業所等と連携した健康づくり
②-3	高齢者や障害のある人への暮らしの支援	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障害のある人が、周囲の支援が必要な状態になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしている 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の地域包括ケアシステムの構築 障害のある人への相談支援や地域における生活支援サービスの充実
②-4	災害に強いまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 災害による被害が最小限に抑えられるよう体制や準備が整っている 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急輸送体制の整備 台風や短時間強雨等による水害対策 非常通信手段の充実 避難支援体制の強化

主要な取組

基本構想の実現に向け、各分野で実施する施策のうち、主要な取組を「めざすまちの姿」ごとに整理する。

めざすまちの姿③ 「活力と魅力にあふれ、進化し続けるまち」

	取組名称	めざすべき状態	主な施策
③-1	地域資源を活かした魅力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 市民が本市への愛着や誇りを持っている 市外から本市に行ってみたい、住んでみたいと思う人が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> 本市の多彩な地域資源を活かした情報発信の推進 農水産物や加工食品等の地場製品のPRの強化、高付加価値化の支援
③-2	新たな活力を創出する賑わいの拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> 人や企業、モノ、情報等が絶えず集まる賑わいの拠点が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> 海老川上流地区に健康維持や予防医学等の考え方を活かしたまちを創出 JR南船橋駅南口市有地を活用し、臨海部の回遊性を創出する拠点を形成

主要な取組

基本構想の実現に向け、各分野で実施する施策のうち、主要な取組を「めざすまちの姿」ごとに整理する。

めざすまちの姿④ 「快適で豊かに暮らせる、人と環境にやさしいまち」

	取組名称	めざすべき状態	主な施策
④-1	環境負荷の軽減・ 環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 循環型社会が構築されている 温室効果ガスが削減されている 市街地と調和した多様な自然環境が保全・創出されている 	<ul style="list-style-type: none"> ごみの減量及び資源化の推進 再生可能エネルギー設備の導入 生物多様性の保全・利用 公園や緑地の整備
④-2	安全で快適な道 路・交通環境の整 備	<ul style="list-style-type: none"> 慢性的な交通渋滞が解消されている 安全な歩行者空間が確保されている 快適な移動手段が確保されている 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路等の主要な幹線道路の整備 や交差点の改良 歩道やコミュニティ道路の整備 公共交通の活性化
④-3	先進技術の利活 用による市民サー ビス向上	<ul style="list-style-type: none"> 行政サービスの手続き等の利便性が 向上している 市民へ効果的に情報が伝達されてい る 	<ul style="list-style-type: none"> 電子申請サービスなどICT技術を活用した市 民サービス向上や情報提供の推進